



にじのはし幼稚園 園だより



令和 2 年 1 2 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園 長 酒 井 正 美

先日のでくてくデーで、4, 5歳児は第三台場へ、3 歳児はレインボー公園へそれぞれ出掛けてきました。両日とも雲一つない青空の下、真っ赤な葉を見付けたり、落ち葉を拾い集めたりして、この時期ならではの自然に関わり楽しんでできました。幼稚園から歩いてすぐに行くことができる恵まれた環境を、これからも積極的に生かしていきたいと思えます。

11月12日 にじのはし幼稚園では、港区教育委員会研究奨励園 研究主題 人も自分も大切にするにじっ子の育成～「道徳性・規範意識の芽生え」から見る評価の工夫～として研究発表会を行いました。保護者の皆様には、保育時間等へのご協力をいただきありがとうございました。「評価」と言うと、できる、できないといった一定の基準に対する達成度についての評価が思い浮かぶかもしれませんが、幼児教育では、「幼児の姿を捉え、教師の指導が幼児の学びを導くものになっているか」ということが、評価となります。子供たちの全ての育ちの基盤となる心の育ちに深く関連している「道徳性・規範意識の芽生え」を視点として、子供たちの心の育ちにつながるよりよい手立てを探り、指導の改善を図ってきたことを、今後も生かしてまいります。

研究発表に加え、当日はパネルディスカッションも行いました。前本園副園長 港区教育委員会幼児教育担当専門官 藤井未知江 先生、赤羽幼稚園・小学校校長 宮崎直人 先生、元お台場学園港陽小・中学校長 福井正仁 先生、モデレーターとして、お台場アカデミー学校運営協議会副会長をしていただいている、文部科学省国立教育政策研究所 山森光陽 先生にご登壇いただきました。幼稚園、小学校、中学校のそれぞれの立場から「道徳性・規範意識」についてお話いただく貴重な機会となりました。

発達段階の違いはあっても、学習(遊び)と生活の中で、直接体験をすることや葛藤を体験することは、子供たちの成長に必要不可欠です。義務教育を経て大人へと育っていく子供たちの成長の礎となる幼児教育の重要性を改めて思います。私たちは日々体験を重ねる子供たちの成長を支える大人でありたいと思います。しかし、大人であっても、目の前の子供に接するときに迷うことは日々あることと思います。迷いの中には、このことを自分はどう考え子供に何を伝えたいと思うのか、という自問や、大事なことをしっかりと子供に伝えられているか、子供が考えたり試したり葛藤したりすることを見守り待つてあげられているか、等々があるのではないのでしょうか。ですが、難しさを感じることはあっても、よりよくありたいと思い、真剣に向き合う姿勢は必ず子供たちに伝わります。

危ないこと、してはいけないことについては、その場面で毅然と伝える必要があります。しかし、大きな声で言ったり手を挙げたりすることは、子供に恐怖心を与え、「怒られるから」「怖いから」しないということにしかありません。どんなに小さい子供でも、「本当に危ないから」「相手が嫌な思いをするから」「何があっても人を(親も)叩くことはいけないこと」等、なぜよくないのか、また、愛するあなたがそのようなことをする子になるのは悲しい、という思いをしっかりと伝えることが大切です。幼児は信頼する大人への依存から、少しずつ自律をしていきます。その自律を支えることは、小学校以降の育ちにもしっかりとつながっていきます。子育て、教育は一人でできるものではありません。子供たちに関わるそれぞれの立場の大人同士が一緒に考え支えることで、子供たちの「道徳性・規範意識の芽生え」を育ていけることを願います。